



飾られた家族の写真一つ一つに、忘れられない思い出が詰まっています。

毎日元気に過ごせることが幸せ。
住み慣れたこの場所で家族との思い出を作ります。

木村 節子 さん 昭和 6 年生まれ 85 歳 / むつ市城ヶ沢出身

私の小径
こみち

木村節子さんは「みちのく金谷デ
イサービスセンター」と「みちのく
訪問看護ステーション」を週 1 回、通
院のために「みちのく訪問介護ステ
ーション」を月 1 回利用しています。

節子さんは 5 人兄弟の長女として
生まれ、城ヶ沢の尋常高等小学校を
2 年生で卒業した後は田畑を耕すな
ど、農業に従事していました。

漁業や農業を営んでいた夫とは近
所の幼馴染だったため心が知れた
間柄でした。家業の手伝いの傍ら、2
人の息子を立派に育て上げました。

「昔の漁師や百姓は全てが人力で、
手作業だったからすごく大変だっ
た。でも、世の中に機械が普及するよ
うになって、城ヶ沢の中でも私たち
は早くに耕運機を取り入れて、少し
でも作業を軽くしたんだよ。」

長年苦勞を共にしてきた夫は
2005 年に他界。節子さんはその
後も自宅で次男夫婦と暮らし、現在
は孫夫婦も同居して 8 人家族で生活
しています。

2016 年、心不全で入院するこ
とになった節子さん。病状や服薬の
管理が必要と考え、退院後に「みち
のく訪問看護ステーション」の利用
を開始しました。退院直後は日中も
横になる生活が続いていましたが、
少しずつ体調も回復、今では元気に
近所を散歩したり、自宅近くの親戚

宅へ毎日のように出掛けては世間話
を楽しみます。

「体調で不安に思う時は、訪問看護
ステーションの看護師さんからアド
バイスがもらえるので助かる。生活
に安心感が持てるよ。」

体調が回復したお陰で、心不全に
なる前から誘われていた「みちのく
金谷デイサービスセンター」に友人
と一緒にに行けるようになりました。

「金谷デイサービスには遊びに行っ
ている感覚。体操も参加して頑張っ
ているけど、友人たちとトランプで
遊んでいるのが楽しい。」

そんな節子さんは、次男が野球を
やっていた影響で、野球観戦が趣味に
なりました。2 人の孫も野球が好きで
野球一家。夏は甲子園、夜はプロ野球
をテレビで観戦するのが日課です。

2015 年には、次男と孫が所属
する軟式野球チームが全国大会まで
進み、その時のお土産の数珠ブレス
レットは大事な宝物。肌身離さずつ
けています。

息子、孫と男の子ばかりでしたが、
ひ孫で待望の女の子が産まれました。
「女の子はやっぱり可愛いよ。」
と笑顔で話します。

ひ孫たちの成長を楽しみにしなが
ら、これからも産まれ育ったこの地
域で、家族全員の元氣と健康を願ひ
ながら過ごします。記 / 北川 夕紀

★ シンチャオ! ベトナム滞在記 〜新たな「介護人材養成コース」の開講〜

シンチャオ!! (ベトナム語で「こんに
ちは」の意味) 久しぶりのベトナムから、
新規事業のレポートです。

今年 7 月、当法人は新たな「介護人材
養成コース」をフエ省立フエ医療短期大
学にて開講することになり、「協働事業
の覚書」を正式に締結しました。この協
働事業は、「日本式福祉・介護・日本語
コースの設立」と「コース修了後の就労
支援」を大きな柱に掲げています。

当法人はこれまで、同じくフエ市にあ
る国立フエ医科薬科大学と「日越医療・
福祉事業協定(2014 年 11 月締結)」に
おいて「介護人材養成コース」を設立し、
ベトナム人介護人材の育成を行ってき
ました。同コースではこれまで 2 期の卒
業生(合計 32 名)を輩出していますが、現
在、コース参加希望者は年間約 20 名程度
という状態です。事業をサポートして頂
いているフエ市人民委員会やフエ市長か
ら「もっと人数の拡大を目指すべき」と
の声があり、昨年 7 月から、より実践的な
教育を行っているフエ医療短期大学との
協働事業の協定を開始しました。

フエ医療短期大学(以下、短大)におけ
る「介護人材養成コース」設立に向けて
最初に目指したことは、短大に「介護学
科」を新設してもらうことでした。しか
し、教育・訓練省(日本の文部科学省に相
当)の許可が必要のため、短大に介護の
教育という実績が無い中で介護学科
設立は非常に困難でした。

そのため、私たちは 1 年間にわたり短
大と協議を重ね、最終的に看護学科に選
択コースとして「介護人材育成コース」を
設立する、という形で合意に至りました。



国立フエ医科薬科大学のコース卒業生
は、早ければ今年度中に技能実習制度
で来日します。

「フエ医科薬科大学」と「フエ医療短期大学」の介護人材養成コースの違い

	フエ医科薬科大学 (2015 年より開講)	フエ医療短期大学 (新開講)
①対象者	看護系の大学・短大・専門学校の既卒者 (社会人経験者含む)	現役の看護学科の学生
②対象定員	20 人	初年度 50 人(1 年生)、3 年後は 150 人(1~3 年生)
③学習期間	1 年間	3 年間
④カリキュラム	100%が大学のカリキュラム外の単独コース	30%が短大のカリキュラム内に組み込まれるコース
⑤学習内容	基礎的な日本語コミュニケーション能力(N4 程度) と介護職員初任者研修水準以上の実践的な介護技術	基礎的な日本語コミュニケーション能力(N4 から N3 程度)と日本の介護職員初任者研修水準以上の 実践的な介護技術
⑥卒業認定	当法人が認定する「まるめろ式 KAIGO 認定」	当法人が認定する「まるめろ式 KAIGO 認定」と短大 の卒業単位に認定

短大での「介護人材養成コース」は、こ
れまでのフエ医科薬科大学とは大きく
異なり、現役の学生が 1 年生から 3 年生
の期間で介護と日本語を学び、コース履
修単位は短大の看護学科の卒業単位に
一部組み込まれることになりました。

また、短大側が「一番懸念している」「卒
業生の就労支援」にも力を入れていきま
す。ベトナムでは、短大の看護学科を卒
業しても、看護師の仕事につける割合は
約 20%程度(当法人調べ)と、学校で勉強
したことを活かせる就職口が十分にあ
るとは言えない現状です。

新たな取り組みにおいては、教育もさ
ることながら、学生たちが日本の当法人
の施設や、他の施設で働くための支援体
制を作り上げていくことも大きな責務
の一つとして、日本とベトナムの互恵関
係の深化を目指します。

記 / 向井正大(フエ事業所)

やさしい街づくりを応援しています。

快適な環境づくりのお手伝い

- 介護用品のレンタル・販売
(車いす・ベッド・リハビリ機器他)
- 住宅改修

株式会社 シルバーサービス
〒035-0033 むつ市横迎町 2-9-13
TEL 0175-22-9511

し尿収集運搬業・浄化槽保守点検・清掃業
一般、産業廃棄物収集運搬業
下水道管渠清掃カメラ調査、下水終末処理場維持管理業

谷川環境衛生開発(株)
代表取締役社長 谷川 聡

本社: むつ市新町 41-1
TEL. 0175(22)2659 FAX. 0175(22)7783
フリーダイヤル 0120-12-2659

学生・求職者向け 第 2 回職場見学会のご案内

みちのく荘でのお仕事、一度見学してみ
ませんか? 求職者や福祉の仕事・看護・
介護・リハビリなどに興味がある方を対象と
した見学・説明会を開催します。学生の方は
ご両親と同伴も歓迎です。
事前予約は不要。手ぶらでお越し下さい。

《日時》

2017 年 10 月 4 日(水)

午前 10 時スタート(受付開始 9 時 30 分)

《場所》

特別養護老人ホームみちのく
荘(むつ市十二林 11-13)

《相談・問い合わせ》

電話 / 0175(23)1600

担当 / 人材部・徳田



お客様へエネルギーの創造と革新を提供し、
経済・社会の発展に努めます。

ENEOS グローブエナジー株式会社
URL: http://eg-energy.jp/

むつ支店: むつ市南赤川町 10-27
TEL 0175-22-8320

青森社会福祉振興団 ドイツ・デュッセルドルフ視察調査報告

当法人は7月2日から10日まで、ドイツ国内有数の日本人コミュニティを抱えるデュッセルドルフ市で、現地日本人高齢者の介護ニーズ調査を行った。

ドイツの経済都市デュッセルドルフ市には、約1万人の在留邦人がおり、「ヨーロッパ最大の日本人街」として有名だ。しかし、高齢化が進む中、定住する日本人にとって老後の生活や介護は大きな課題だ。

ドイツでの調査は今年2月以来2度目となる。同市の日本人団体会員と面談して日常生活や将来の介護に関する課題、要望を聴き、今後の支援や事業化の可能性を探った。面談から会員たちの多くが、加齢に伴うドイツ語能力の低下と介護・老後生活への影響に不安を抱え、日本食や日本人によるケアサービスを強く望んでいることが明らかとなり、定住者特有の課題が浮き彫りとなった。

調査には当法人の中山辰巳専務理事と杉野利久理事、中山瞬総務主任と、ドイツの高齢者介護事情を研究する元岡山県立大学名誉教授の中嶋和夫氏の計4人が参加した。面談したのは前回同様、同市の日本人団体「竹の会」の会員。今回は同市の住宅・福祉局長担当者と意見交換したほか、日本総領事館や現地の日本商工会議所も訪れ、諸制度やビジネス事情に理解を深めた。

「竹の会」は会員約80人で組織。ドイツで迎える高齢期への備えを学び、日独相互理解を深める活動などに取り組んでいる。公



デュッセルドルフ市には約 540 社の日本企業が拠点を構え、駐在員やその家族を中心に多くの日本人が居住している。



「竹の会」会員との面談調査で、介護や生活上のニーズを尋ねる中山専務理事（右）

益社団法人として正式発足し今年11年目を迎える。同会と親交がある中嶋氏が、ベトナムでの介護人材育成など海外事業を展開する当法人との間を取り持った。

今回の調査で面談したのは会員20人。2月の調査と合わせ合計25人となる。介護ニーズをより詳しく捉えようと、面談者数を前回から大幅に増やした。このほか、ドイツの「介護福祉士」資格を取得し市内で働く日本人女性（46）に医療・介護事情を聞いた。20人の内訳は、男性4人、女性16人で51～91歳。ドイツ在住歴は11～53年間で、11人が配偶者と二人暮らし、8人が一人暮らし（一人はパートナーと同居）。面談では移住の経緯や家族構成、使用言語などの生活背景と、加齢に伴う生活上の課題や不安などについて尋ねた。介護に関しては日常生活で必要とする支援や、ケアを受けたい場所（自宅・高齢者施設）、希望する介護者（家族、日本人、ドイツ人）施設などを聞いた。

高齢化に伴うドイツ語力の衰えは、将来何らかの介護を選択することになる定住者にとって深刻な問題だ。ドイツ人介護従事者と意思疎通できなくなれば、現地のケアを受けることは難しい。一方で、現在ドイツも含めヨーロッパに日本人向け高齢者介護サービス・施設はない。面談で会員の一人は、病気でドイツ語での会話が不自由になり過酷な療養生活を送った日本人の例と、会員たちがその支援に苦労した体験を語った。調査団は、異文化の中で高齢化すること



「竹の会」理事らと懇談する調査団（画面上、左から中嶋氏、中山専務理事、杉野理事）

の深刻な側面を実感した。

面談者の多くはドイツで一般的な在宅介護を望む一方、子どもには負担を掛けたくないと考えている。「介護のため日本に帰国する選択肢はあるか」との問いには、「帰っても住むところがない」「子どもや孫をドイツに残し帰ることはできない」とする答が大半を占めた。

また、日本食を「渴望」する声は根強く、日常生活や介護の現場で重視する要素だ。在住歴が長い会員ほどその思いは強い。ドイツ食には全員難色を示していた。日本語を使った（日本人による）ケアと日本食を提供する高齢者サービス拠点が開設されれば「ぜひ利用したい」と大半が答えていた。

今後、「竹の会」が邦人向け施設の開設やケア提供を希望し、行政への嘆願書や要望書の提出といった具体的なアクションを起こせば、当法人は事業化の可能性を精査していく方針だ。

「介護の輸出」を提唱してきた中山専務理事は、「在留邦人の高齢化・介護問題は3年以内には顕在化する。現地の人々は、自分と同時代に働き苦勞を共感する世代。見捨ててはおけない。日本式介護や法人が世界に通用するか試してみたい」と話している。

記／福岡孝博（新規事業部）



関野準一郎記念
まるめる美術館ご案内
「青森と東京」展
一生まれた場所、そして画家として生きた場所—
期間／2017年10月6日（金）～2018年2月6日（火）
開館時間／10：00～16：00
休館日／第一水曜日・第一木曜日・土曜日・日曜日
・祝日・年末年始



第3回まるめる杯を開催!!

「みちのく荘サービス公開競技大会・第3回まるめる杯」を開催します。本大会は、当法人の各事業所から厳しい予選を勝ち抜いた代表職員が専門技術を競い合う、公開競技大会です。

今回は「リハビリ」「看護」「調理」「介護」の他、どの職場でも必要な「接遇」を加えた計5部門で競います。

まるめる杯は、**どなたでも無料で観覧**できます。ご家族ご友人お誘い合わせの上、ぜひお越しください。



《場所》

特別養護老人ホーム金谷みちのく荘内
地域交流ホール（むつ市金谷2-20-2）

《日にち》

11月19日（日）

《タイムスケジュール／競技内容》

- ・リハビリ／13時10分「移動介助」
- ・看護／14時15分「仙骨部の褥瘡処置」
- ・接遇／15時35分「電話対応」
- ・調理／16時45分「出汁巻き玉子」
- ・介護／18時05分「離床・排泄介助」

「認知症カフェ まるめる」を毎月開催しています！

「認知症カフェまるめる」は、介護のブローによる認知症の相談や情報提供・レクリエーションなどを行う、地域参加型のコミュニティです。県の委託を受け、認知症になっても安心して暮らせる町づくりの一助として開催しています。

認知症の方やその家族はもちろん、認知症について関心がある方、情報を知りたい方、地域の方など、どなたでも参加可能です。事前予約不要、参加費無料ですので、お気軽にお越し下さい。

●お問い合わせ

むつ市地域包括支援センターみちのく
電話／0175(23)7930

- 《日時》
- ・毎月第4金曜日／10時～14時（時間内は出入り自由です）
- 《場所》
- ・むつ市十二林8-10（開催日に「のぼり旗」を設置します）



やさしい街づくりを応援しています。



家族介護教室のご案内

今年は「ここまでできる」シリーズと題し、在宅介護の基本知識と最新情報をお届けしています。第1回は「ここまでできる服薬管理」というテーマで、9月16日に下北文化会館で行われました。第2回は「訪問リハビリ」、第3回は「訪問看護」、第4回（最終回）は「食事介護」について開催します。

現在、第2回の申し込み受付中です。参加費無料です。お気軽にお申込みください。

《開催テーマ／日時》

第2回「ここまでできる訪問リハビリ」
／10月21日（土）10時～11時30分

《場所》

金谷地域交流ホール（むつ市金谷2-20-2）

《申し込み先》

みちのく在宅介護支援センター
電話／0175(23)7930